

平成25年度

登録販売者試験問題

【午後の部】

平成25年8月28日(水)
13:30～15:30

※出題数は60問であるので確認して下さい。

1. 試験中、机上には受験票、筆記用具、時計以外のもの(下敷き、筆入れ、電卓、計算機付き時計、飲食物等)は置かないで下さい。
2. 携帯電話等通信機器は試験開始前に電源を切って下さい。
3. 質問がある時、又は筆記用具が机から落下した時は、黙って右手を上げて下さい。
4. 午前・午後とも試験開始後1時間を経過した後は、試験時間終了前の退席を認めます。
この場合は、試験監督の指示に従い、解答用紙を裏返して退席して下さい。
ただし、状況により試験監督が別の指示を行う場合があります。
5. 試験時間終了前に退席した場合は、その理由によらず再入場は認めません。
6. この試験問題は、各自持ち帰って下さい。
7. 合格発表は、平成25年10月15日(火)午前10時、島根県庁前及び各保健所の掲示板並びに島根県ホームページに合格者の受験番号を掲示することにより行います。
なお、合格者には、おって合格証を送付します。
8. 受験者が自らの得点を知りたい場合は、合格発表の日から1ヶ月間、最寄りの保健所及び薬事衛生課にて開示を実施しますので、必ず受験票、運転免許証、パスポート等、本人確認ができるものを持参の上お越し下さい。(電話による照会にはお答えできません。)

島 根 県

主な医薬品とその作用

問1 かぜの症状やかぜ薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 「かぜ」は単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群という、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる様々な症状の総称である。
- b インフルエンザ（流行性感冒）は消化器症状が現れることがあり、俗に「お腹にくるかぜ」などと呼ばれることがある。
- c かぜ薬とは、かぜの諸症状の緩和及びウイルスの増殖を抑える目的で使用される医薬品の総称であり、総合感冒薬とも呼ばれる。
- d かぜであるからといって必ずしもかぜ薬（総合感冒薬）が選択されるのが最適ではなく、発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬などが選択されることが望ましい。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問2 かぜ薬に配合される成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【目的とする作用】
a	エテンザミド	—	咳を抑える
b	フマル酸クレマスチン	—	くしゃみや鼻汁を抑える
c	塩酸ブロムヘキシン	—	痰の切れを良くする
d	グリチルリチン酸二カリウム	—	咳を抑える

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問3 プロスタグランジンと解熱鎮痛薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 痛みや発熱は、体内で産生されるプロスタグランジンの働きによって生じる。
- 2 病気や外傷のときは、体内でのプロスタグランジンの産生が活発になり、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、その痛みの信号を増幅させる。
- 3 解熱鎮痛薬は、配合されている解熱鎮痛成分によって解熱、鎮痛、抗炎症のいずれの作用が中心的であるかなどの性質が異なる。
- 4 解熱鎮痛薬は、痛みや発熱の原因となっている病気や外傷自体を治すことにより、発熱や痛みを鎮めるために使用される医薬品（内服薬）の総称である。

問4 かぜの症状の緩和に用いられる次の漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウ及びマオウの両方を含むものはどれか。

- 1 しょうせいりゅうとう
小青竜湯
- 2 はんげこうぼくとう
半夏厚朴湯
- 3 しょうさいこうとう
小柴胡湯
- 4 けいしとう
桂枝湯
- 5 ばくもんどうとう
麦門冬湯

問5 解熱鎮痛薬における解熱鎮痛成分以外の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助ける目的で、アシルイソプロピルアセチル尿素のような鎮静成分が配合されていることがある。
- b 胃腸障害を減弱させる目的で水酸化アルミニウムゲルのような制酸成分が配合されていることがある。また、制酸成分が配合されているため、胃腸症状に対する薬効を標榜することができる。
- c 中枢神経系を刺激して疲労感、倦怠感を和らげる目的で、無水カフェインのようなカフェイン類が配合されていることがある。
- d ビタミンB1やビタミンB2は、解熱鎮痛効果を減弱させることがあるため、解熱鎮痛薬に配合してはならない。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問6 眠気を促す薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 主成分が抗ヒスタミン成分である睡眠改善薬は、寝つきが悪いなどの一時的な睡眠障害の緩和に用いられるものであり、慢性的に不眠症状がある人を対象としたものではない。
- b 生薬成分のみからなる鎮静薬の場合、複数の鎮静薬の併用や、長期連用は避ける必要はない。
- c 睡眠改善薬の配合成分である塩酸ジフェンヒドラミンは、脳内のヒスタミンによる刺激の発生を抑制し眠気を促すという中枢作用が、抗ヒスタミン成分の中では弱い。
- d ブロムワレリル尿素については、胎児障害の可能性があるので、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問7 眠気防止薬の主たる有効成分として配合されるカフェインに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は、カフェインとして200mg、1日摂取量では500mgが上限とされている。
- b 摂取されたカフェインの一部は乳汁中にも移行するため、乳児に与える影響を考慮し、授乳期間中は食品等に含まれるカフェインと併せて、カフェインの総摂取量が継続して多くなならないよう留意されることが望ましい。
- c カフェインは腎臓での水分の再吸収を亢進するとともに、膀胱括約筋を収縮させるため、尿量の増加（利尿）をもたらす。
- d カフェインは胃酸の分泌を抑制させる作用があり、副作用として悪心・嘔吐などの胃腸障害が現れることがある。

1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問8 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に配合される成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【目的とする作用】
a	塩酸ジフェニドール	—	胃粘膜への麻酔作用による嘔吐刺激の緩和
b	テオクル酸プロメタジン	—	内耳の前庭における自律神経反射の抑制
c	臭化水素酸スコポラミン	—	前庭神経の調節や内耳への血流改善
d	ジプロフィリン	—	脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいの軽減

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問9 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a リン酸ジヒドロコデインは、作用本体であるジヒドロコデインがモルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- b リン酸コデインは、胃腸の運動を亢進させる作用を示すため、副作用として下痢が現れることがある。
- c 臭化水素酸デキストロメトルフアン、リン酸ジメモルファンは非麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える成分とは異なる。
- d ハンゲは、中枢性の鎮咳作用を示す生薬成分である。

1 (a, c)

2 (a, d)

3 (b, c)

4 (b, d)

問10 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 塩酸トリメトキノールは、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮める。
- 2 カルボシステインは、気道粘膜からの分泌を促進する作用を示すことにより、痰の切れを良くする。
- 3 咳や喘息、気道の炎症は、アレルギーに起因することがあり、鎮咳成分や気管支拡張成分、抗炎症成分の働きを助ける目的で、マレイン酸クロルフェニラミンが配合されることがある。
- 4 生薬成分のマオウは、交感神経系の刺激作用を持つため、気管支拡張作用の他に、心臓血管系や肝臓でのエネルギー代謝にも影響を与えることが考えられる。

問 11 口腔咽喉薬^{くういんこう}や含嗽薬^{そう}に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トローチ剤は、有効成分が口腔内^{くう}や咽頭部^{いん}に行き渡るよう、口中に含み、嚙^かまらずにゆっくり溶かすようにして使用するため、循環血流中に入り全身的な影響を生じることはない。
- b 含嗽薬^{そう}は、用時水で希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- c アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、口腔内^{くう}や喉^{のど}に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として配合されることがある。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分については、口腔粘膜^{くう}の荒れ、灼熱感^{おしん}（吐き気）、不快感等の副作用が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 12 胃の薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生薬成分のセンブリやオウバクは、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b テプレノン^{へい}は、胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する、荒れた胃粘膜の修復を促す等の作用を期待して用いられる。
- c 漢方処方製剤の平胃散^いや六君子湯^{りつくんしとう}は、消化不良、食欲不振に適すとされている。
- d 過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、アセチルコリンやヒスタミンの働きを抑える成分が配合されることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 13 胃の薬に配合される成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】		【目的とする作用】	
a	ジメチルポリシロキサン	—	胆汁分泌を促進し消化を助ける
b	アルジオキサ	—	荒れた胃粘膜の修復を促す
c	デヒドロコール酸	—	消化管内容物中の気泡の分離を促進
d	塩酸ピレンゼピン	—	胃液の分泌を抑える

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 14 制酸成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 制酸成分を主体とする胃腸薬は、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用がより進むことが考えられるため、炭酸飲料等での服用は適当でない。
- b メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もある。
- c 透析療法を受けている人では、制酸成分のうちアルミニウムを含む成分の使用を避ける必要がある。
- d 腎臓病の診断を受けた人では、ナトリウム、カルシウム等の無機塩類の排泄が遅れたり、体内に貯留しやすくなるため、制酸成分を主体とする胃腸薬を使用する前に、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

問 15 腸の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の副作用として下痢や便秘が現れることもあり、一般用医薬品の使用中に原因が明確でない下痢や便秘を生じた場合は、安易に止瀉薬や瀉下薬によって症状を抑えようとせず、その医薬品の使用を中止して、医師や薬剤師などの専門家に相談するよう説明がなされるべきである。
- b 生菌成分が配合された整腸薬に、腸内殺菌成分が配合された止瀉薬が併用された場合、生菌成分の働きが腸内殺菌成分によって弱められる。
- c 腸内細菌による分解を受けて作用する成分が配合された瀉下薬に、生菌成分が配合された整腸薬が併用された場合、瀉下作用が強くなり、副作用を生じやすくなるおそれがある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	正	正	誤
5	誤	正	正

問 16 腸の薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マレイン酸トリメブチンは、消化管（胃及び腸）の平滑筋を支配している自律神経に働いて、消化管の運動を調整する作用があるとされる。
- b 塩酸ロペラミドは腸管の運動を亢進させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬の併用を避ける必要がある。
- c 生薬成分であるセンナ及びセンナから抽出された成分であるセンノシドが配合された瀉下薬については、妊婦又は妊娠していると思われる女性であっても、安心して使用できる。
- d タンニン酸ベルベリンは、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられる。

- 1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問 17 ^{かん}浣腸薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ^{かん}浣腸薬は、直腸内に適用される医薬品であるため、経口薬とは異なり、繰り返し使用しても感受性の低下は生じない。
- b ^{かん}浣腸薬は、流産・早産を誘発するおそれはないため、妊婦又は妊娠していると思われる女性でも使用を避ける必要はない。
- c グリセリンが配合された^{かん}浣腸薬が、^{こう}肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- d グリセリンは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 18 胃腸鎮痛鎮^{けい}痙薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 臭化ブチルスコポラミンは、副交感神経系の働きを抑える作用により胃痛、腹痛を鎮めるが、口渇、便秘、排尿困難等の副作用が現れることがある。
- b ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなるおそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- c 塩酸パパペリンは、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の^{けいれん}痙攣を鎮めたり、胃液分泌を抑える作用を示す。また、眼圧を上昇させる作用を示すことが知られている。
- d オキセサゼインは、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用により鎮痛鎮^{けい}痙の効果を示すため、胃液分泌を抑える作用はない。

- 1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問 19 駆虫薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と^{ぎょう}蟯虫である。
- 2 駆虫薬は消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、食後に使用することが多い。
- 3 サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- 4 パモ酸ピルビニウムは、^{ぎょう}蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。
- 5 駆虫薬は、腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵には駆虫作用が及ばない。

問 20 循環器用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ユビデカレノン（別名：コエンザイムQ10）は、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされる。
- b ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c イノシトールヘキサニコチネートが代謝されるとビタミンEとなり、末梢の血液循環を改善する作用を示す。
- d 生薬成分であるコウカには、末梢の血行を促して^{うっ}鬱血を除く作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	正

問 21 強心薬に配合される生薬成分とその由来について、正しいものの組み合わせはどれか。

- | 【生薬成分】 | 【由来】 |
|---------|--|
| a センソ | — ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたもの |
| b ジャコウ | — シカ科のジャコウジカ又はその近縁動物の雄のジャコウ腺分泌物を乾燥したもの |
| c ゴオウ | — シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカ等の雄の幼角を用いたもの |
| d ロクジョウ | — ウシ科のウシの胆囊中に生じた結石を用いたもの |
- 1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問 22 コレステロールに関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

コレステロールの産生及び代謝は、主として肝臓で行われる。コレステロールは水に (a) 物質であるため、血液中では血漿蛋白質と結合したりリポ蛋白質となって存在する。

リポ蛋白質は比重によっていくつかの種類に分類されるが、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポ蛋白質は (b) である。末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポ蛋白質は (c) である。

- | | a | b | c |
|---|-------|----------------|----------------|
| 1 | 溶けやすい | 低密度リポ蛋白質 (LDL) | 高密度リポ蛋白質 (HDL) |
| 2 | 溶けやすい | 高密度リポ蛋白質 (HDL) | 低密度リポ蛋白質 (LDL) |
| 3 | 溶けにくい | 低密度リポ蛋白質 (LDL) | 高密度リポ蛋白質 (HDL) |
| 4 | 溶けにくい | 高密度リポ蛋白質 (HDL) | 低密度リポ蛋白質 (LDL) |

問 23 高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 大豆油不^{けん}飽和物は、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされている。
- c リノール酸は、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされている。
- d ビタミンB2は、過酸化脂質と結合し、その代謝を促す作用を期待して配合される。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 24 貧血及び貧血用薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鉄分の摂取不足を生じても、初期にはヘモグロビン量が減少するのみで貯蔵鉄や血清鉄は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。
- b コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c マンガンは、糖質・脂質・^{たん}蛋白質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。
- d ビタミンEは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態（ヘム鉄）に保つことを目的として用いられる。

1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問 25 痔^じ及び痔疾^じ用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 痔核^じは、肛門^{こう}に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状^はの腫れが生じたもので、肛門部^{こう}に過度の圧迫をかけることが主な要因とされている。
- b 痔^じによる肛門部^{こう}の炎症^かや痒み^ゆを和らげる成分として、酢酸^かプレドニゾロンのようなステロイド性抗炎症成分が配合されている場合がある。
- c 痔疾患^じに伴う局所の感染を防止することを目的として、殺菌消毒成分であるアラントインが配合されている場合がある。
- d カルバゾクロムは、痔^じによる肛門部^{こう}の創傷^{ゆう}の治癒^ゆを促す組織修復成分として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 26 婦人用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a エストラジオール等の女性ホルモン成分の長期連用により、血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌^{がん}や脳卒中などの発生確率が高まる可能性がある。
- b 膣^{ちつ}粘膜又は外陰部に適用される女性ホルモン成分は、適用部位から吸収されるが、循環血液中に移行することはない。
- c 加味^か逍遙散^{しやうようさん}は、虚弱体質で肩がこり、疲れやすく、精神不安等の精神神経症状、ときに便秘の傾向のある女性における冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症に適すとされている。
- d 桃核承気湯^{とうかくじやうきとう}は、妊婦又は妊娠していると思われる女性、授乳婦にも安心して使用できる。

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 27 アレルギー及びアレルギー用薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルゲン（抗原）が体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫グロブリン（抗体）によって、肥満細胞が刺激され、生理活性物質であるヒスタミンやプロスタグランジン等が遊離する。
- b アレルギー用薬は、フマル酸クレマスチンやメキタジンのようなヒスタミンの働きを抑える作用を示す成分（抗ヒスタミン成分）を主体として配合されている。
- c 塩酸ジフェンヒドラミンは、乳汁に移行しないため、授乳中の女性でも使用することができる。
- d 内服薬と外用薬では同じ成分又は同種の作用を有する成分が重複することもあるが、それらは相互に影響し合わないため、併用しても問題はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 28 鼻に用いる薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 塩酸ナファゾリンが配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- 2 クロモグリク酸ナトリウムは、抗ヒスタミン薬と併用されると副作用が現れやすいので組み合わせて用いられない。
- 3 塩化ベンゼトニウムは、局所麻酔成分として、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み^{かゆ}を抑えることを目的として配合される。
- 4 塩酸リドカインは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される。

問 29 眼科用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ソフトコンタクトレンズは水分を含みにくいので、装着したまま防腐剤を含む点眼薬を点眼しても問題はない。
- b 点眼後は、数秒間、眼瞼（まぶた）を閉じて、薬液を結膜囊内^{のう}に行き渡らせ、その際、目頭を軽く押さえると、効果的とされる。
- c アレルギー用点眼薬は、花粉、ハウスダスト等のアレルゲンによる目のアレルギー症状（流涙、目の痒み^{かゆみ}、結膜充血等）の緩和が目的である。
- d 人工涙液は、目の洗浄、眼病予防に用いられるもので、主な配合成分として、涙液成分のほか、抗炎症成分、抗ヒスタミン成分等が用いられる。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 30 眼科用薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスパラギン酸カリウムは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合される。
- b イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して用いられる。
- c メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを阻害することで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- d スルファメトキサゾールは、細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎の症状を改善させることを目的として用いられるが、ウイルスや真菌の感染に対する効果はない。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 31 外皮用薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 デキサメタゾン[®]は、ステロイド性抗炎症成分であり、体の一部分に生じた湿疹、皮膚炎等の一時的な皮膚症状（ほてり・腫れ・痒み等）の緩和を目的とするものである。
- 2 ピロキシカム[®]は、非ステロイド性抗炎症成分であり、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透し鎮痛等の作用を示すため、筋肉痛や関節痛に用いられる。また、光線過敏症の副作用を生じることがある。
- 3 ノニル酸ワニリルアミド[®]は、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して配合されている場合がある。
- 4 ヘパリン類似成分は、損傷皮膚の組織の修復を促す作用を期待して用いられるが、その他に抗炎症作用や保湿作用も期待される。
- 5 硝酸ミコナゾール[®]は、イミダゾール系抗真菌成分であり、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。

問 32 頭皮・毛根に作用する配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 安息香酸エストラジオール[®]は、適用局所においてコリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- b 女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して、塩化カルプロニウム[®]が配合される場合がある。
- c カシュウ[®]は、タデ科ツルドクダミの塊根を用いた生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- d ヒノキチオール[®]は、ヒノキ科のタイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

1 (a, b)

2 (a, d)

3 (b, c)

4 (c, d)

問 33 歯槽膿漏^{そうのうろう}及び歯槽膿漏薬^{そうのうろう}の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 歯と歯肉の境目に細菌が繁殖し、歯肉炎を起こすことがあり、歯肉炎が重症化して、炎症が歯周組織全体に広がると歯周炎（歯槽膿漏^{そうのうろう}）となる。
- b 銅クロロフィリンナトリウムは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して配合されている場合がある。
- c 塩化リゾチムは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合されている場合がある。
- d チモールは、歯周組織の血行を促す効果を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問 34 口内炎及び口内炎用薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 口内炎は、口腔粘膜^{くう}に生じる炎症で、口腔の粘膜上皮に水疱^{ほう}や潰瘍^{かいよう}ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- b 一般用医薬品の副作用として、口内炎が現れることはない。
- c 塩化セチルピリジニウムは、口腔粘膜^{くう}の炎症を和らげることを目的として配合されている場合がある。
- d シコンは、ムラサキ科のムラサキの根を用いた生薬で、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 35 ニコチンを含む禁煙補助剤（咀^そ嚼^{しゃく}剤）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 嘔^かみすぎて出過ぎた唾液を飲み込むと、吐き気や腹痛等の副作用が現れやすくなるため、ゆっくりと断続的に嘔^かむこととされている。
- 2 口腔内^{くわう}が酸性になるとニコチンの吸収は低下するので、コーヒーや炭酸飲料を摂取した後しばらくは、使用を避けることとされている。
- 3 喫煙を完全に止めたうえで使用するものであり、特に、使用中または使用直後の喫煙は避けることとされている。
- 4 使用期間は6ヶ月を目途とし、1年を超える使用は避けることとされている。

問 36 滋養強壮保健薬の配合成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【目的とする作用】
a	ヘスペリジン	—	ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける。
b	アスパラギン酸ナトリウム	—	軟骨成分を形成及び修復する働きがある。
c	ガンマーオリザノール	—	米油及び米胚芽油から見出され、抗酸化作用を示す。
d	コンドロイチン硫酸ナトリウム	—	肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがある。

1 (a, b)

2 (a, c)

3 (b, d)

4 (c, d)

問 37 漢方及び漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 陰陽五行説は、人体の臓器を五臓六腑に分け、それぞれの臓器が相互に作用し合
って生体のバランスを取っている、という考え方に基づいて処方を選択する考え方
である。
- 2 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であ
っても、3歳未満の幼児には使用しないこととされている。
- 3 漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多い。
- 4 漢方処方を構成する生薬には、複数の処方で共通しているものもあり、同じ生薬
を含む漢方処方製剤が併用された場合、作用が強くなり、副作用を生じやすくな
る恐れがある。

問 38 以下の記述に当てはまる漢方処方製剤はどれか。

比較的体力があり、のぼせがみで顔色が赤く、いらいらする傾向のある人における、
鼻出血、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸の症状に適
すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされ
る。

- 1 黄連解毒湯
- 2 防風通聖散
- 3 大柴胡湯
- 4 清上防風湯
- 5 防己黄耆湯

問 39 公衆衛生用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 次亜塩素酸ナトリウムなどの塩素系殺菌消毒成分は、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、皮膚刺激性が強いため、人体の消毒には用いられない。
- b クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対して殺菌消毒作用を示す。
- c ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- d ダイアジノンのようなピレスロイド系殺虫成分の殺虫作用は、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害することによるものである。

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 40 一般用検査薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 尿糖・尿蛋白検査薬は、尿中の糖や蛋白質の有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに疾患の有無や種類を判断することはできない。
- 2 妊娠検査薬を使用する場合の採尿は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が検出されやすい就寝前に向いているが、尿が濃すぎると、正確な結果が得られないこともある。
- 3 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。
- 4 尿糖・尿蛋白検査薬及び妊娠検査薬については、一般用医薬品（一般用検査薬）として薬局、店舗販売業、配置販売業において取り扱うことが認められた製品がある。

医薬品の適正使用と安全対策

問 41 一般用医薬品の適正使用情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こりえる副作用等、その適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- b 一般用医薬品の添付文書に記載されている適正使用情報は、医療関係者向けに記載されたものである。
- c 医薬品の販売に当たっては、添付文書や製品表示に記載されている内容を的確に理解した上で、購入者への適切な情報提供や相談対応をすることが重要である。
- d 一般用医薬品の添付文書は、常に最新の情報を提供するため少なくとも年に1度は改訂しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問 42 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 重要な内容が変更された場合は、改訂年月を記載するとともに改訂箇所を明示することとされている。
- b 添付文書は、開封時に一度目を通せば十分であるので、必要な時にいつでも取り出して読むことができるよう保管しておく必要はない。
- c 添付文書には、その製品の概要をわかりやすく説明するために成分・分量からみた特徴を必ず記載しなければならない。
- d 添付文書に記載されている「使用上の注意」、「してはいけないこと」及び「相談すること」の各項目の見出しには、それぞれ統一された標識的マークが付されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 43 牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人が使用（服用）すると重篤な副作用が生じる危険性が高い成分の組み合わせはどれか。

- a 塩化リゾチーム
- b タンニン酸アルブミン
- c カゼイン
- d ケトプロフェン

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (a, d) 4 (b, c) 5 (b, d)

問 44 塩酸プソイドエフェドリンを成分とする一般用医薬品の添付文書の「使用（服用）しないこと」に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 交感神経興奮作用により高血圧を悪化させるおそれがあるため、高血圧の診断を受けた人は使用（服用）しないことと記載されている。
- b 肝臓でグリコーゲンを分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病を悪化させるおそれがあるため、糖尿病の診断を受けた人は使用（服用）しないことと記載されている。
- c 徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、心臓病の診断を受けた人は使用（服用）しないことと記載されている。
- d 胃液の分泌が亢進し、胃潰瘍の症状を悪化させるおそれがあるため、胃潰瘍の診断を受けた人は使用（服用）しないことと記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 45 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する記述について、() の中に
入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

- ・ 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、鎮静作用の増強が懸念されるため
「(a) しないこと」の記載がある。
- ・ アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため
「(b) しないこと」の記載がある。
- ・ グリチルリチン酸二カリウム（1日用量がグリチルリチン酸として40mg以上
含有する場合）を含有する漢方生薬製剤以外の鎮咳去痰薬は、偽アルドステロン症
を生じるおそれがあるため、「(c) しないこと」の記載がある。

	a	b	c
1	服用時は飲酒	長期連用	6歳未満の小児は使用(服用)
2	服用時は飲酒	6歳未満の小児は使用(服用)	長期連用
3	長期連用	6歳未満の小児は使用(服用)	服用時は飲酒
4	長期連用	服用時は飲酒	6歳未満の小児は使用(服用)
5	6歳未満の小児は使用(服用)	服用時は飲酒	長期連用

問 46 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a シロップ剤は他の剤型と比較して変質しにくいいため、開封後は冷蔵庫内で保管する必要はない。
- b 錠剤、カプセル剤、散剤は取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- c 一般用医薬品を勤務先や旅行先に携帯する場合には、変質や衝撃による破損を避けるために必要最小限を別容器に入れ替えて持ち歩く方が望ましい。
- d 眼科用薬は、細菌による汚染を防ぐため、複数の使用者間で使い回し、可能な限り短期間で使い切ることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 47 一般用医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 全ての一般用医薬品は、未開封の場合の、品質の安定が確認できた期間を使用期限として表示する義務がある。
- b エアゾール製品には、薬事法の規定により「高温に注意」と表示されている。
- c 1回服用量中 0.1m l を超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- d 消毒用アルコール等の危険物に該当する製品の表示には、消防法に基づく注意事項が表示されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 48 緊急安全性情報に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

予期しない重大な副作用の発現など重要かつ緊急な情報伝達が必要な場合に、(a) からの指示に基づいて、製薬企業等から医薬関係者に対して、(b) 以内に原則として直接配布し、情報伝達されるものである。

A 4 サイズの黄色地の印刷物で、(c) とも呼ばれる。

	a	b	c
1	都道府県知事	4 週間	イエローレター
2	都道府県知事	2 週間	ドクターレター
3	厚生労働省	4 週間	ドクターレター
4	厚生労働省	2 週間	ドクターレター
5	厚生労働省	2 週間	イエローレター

問 49 医薬品・医療機器等安全性情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 重要な副作用、不具合等に関する情報をとりまとめ、広く医薬関係者向けに情報提供を行っている。
- b 重要な副作用等に関する改訂については、その根拠となった症例の概要が紹介されている。
- c 独立行政法人医薬品医療機器総合機構が、毎月定期的に発行している。
- d 厚生労働省ホームページに掲載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 50 医薬品の適正な使用を確保するための情報の収集等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 使用上の注意は全て外箱に記載されている。
- b 医薬品の販売に従事する薬剤師や登録販売者は、製薬企業が作成提供している添付文書集などの情報を活用して、購入者に対して情報提供を行うことが可能である。
- c 独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」で、一般用医薬品の添付文書情報を閲覧できる。
- d 製薬企業は、自社製品の添付文書集を作成し、医薬関係者に提供しなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問 51 薬事法第77条の4の2第2項に規定されている「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 第一類医薬品による副作用等の報告は都道府県知事に行わなければならない。
- b 第三類医薬品による健康被害については、報告義務はない。
- c この制度は、医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- d この制度は、WHO加盟国の一員としてわが国が対応した安全対策に係る制度の一つである。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 52 登録販売者に対して薬事法で義務付けられている副作用等の報告の対象に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害については、報告対象とはならない。
- b 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても、報告の対象となりえる。
- c 報告すべき医薬品の副作用は、使用上の注意に記載されているものだけとは限らない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

問 53 医薬品の安全対策に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

1961年に起こった (a) を契機として、医薬品の安全性に関する問題を世界共通のものとして取り上げる気運が高まり、1968年、世界保健機関 (WHO) 加盟各国を中心に、各国自らが医薬品の副作用情報を収集、評価する体制 (b) を確立することにつながった。

日本における医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、1967年3月より、約3000の (c) をモニター施設に指定して「医薬品副作用モニター制度」としてスタートし、1997年7月に「医薬品等安全性情報報告制度」として拡充し、2002年7月の薬事法改正により医薬関係者による副作用等の報告が義務化され、情報の収集体制が一層強化された。

	a	b	c
1	サリドマイド薬害事件	(WHO国際医薬品副作用救済制度)	医療機関
2	スモン訴訟	(WHO国際医薬品副作用救済制度)	医療機関
3	サリドマイド薬害事件	(WHO国際医薬品モニタリング制度)	医療機関
4	サリドマイド薬害事件	(WHO国際医薬品モニタリング制度)	製薬企業
5	スモン訴訟	(WHO国際医薬品モニタリング制度)	製薬企業

問 54 医薬品の市販後の安全対策の強化を図るために、1979年の薬事法改正により創設された制度はどれか。

- 1 再審査制度・再評価制度
- 2 生物由来製品感染等被害救済制度
- 3 スモン被害者に対する救済制度
- 4 医薬品PL制度

問 55 医薬品副作用被害救済制度に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用によるすべての副作用を対象としている。
- b 給付は、医学的薬学的判断を要する事項について薬事・食品衛生審議会の諮問・答申を経て、厚生労働大臣が判定した結果に基づいて決定される。
- c 救済給付業務に必要な経費は、すべて国費で賄っている。
- d 医療機関での治療を要さずに寛解したような軽度の健康被害については給付対象に含まれない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 56 医薬品副作用被害救済制度の給付の種類に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医療費は、医薬品の副作用による疾病（入院治療を必要とする程度）の治療に要した費用（ただし、健康保険等による給付の額を差し引いた自己負担分）を実費補償するものである。
- b 医療手当は、医薬品の副作用による疾病（入院治療を必要とする程度）の治療に伴う医療費以外の費用の負担に着目して給付されるものである。
- c 障害年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある16歳以上の人の生活補償等を目的として給付されるものである。
- d 遺族一時金は、生計維持者が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族に対する見舞等を目的として給付されるものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 57 アンブル入りかぜ薬による副作用に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンブル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用（ショック）で、1959年から1965年までの間に計38名の死亡例が発生した。

アンブル剤は、他の剤型（錠剤、散剤等）に比べて吸収が速く、血中濃度が急速に高値に達するため（ b ）でも副作用を生じやすいことが確認されたため、1965年、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、アンブル入りかぜ薬製品の回収が要請された。

	a	b
1	解熱鎮痛成分	通常用量
2	解熱鎮痛成分	低用量
3	解熱鎮痛成分	極量
4	鎮咳去痰成分	通常用量
5	鎮咳去痰成分	低用量

問 58 医薬品の使用による副作用と疑われる間質性肺炎に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小柴胡湯とインターフェロン製剤との併用による間質性肺炎が報告されたことから、小柴胡湯とインターフェロン製剤との併用は禁忌となっている。
- b 慢性肝炎患者が小柴胡湯を使用して間質性肺炎を発症し、死亡に至った例の報告もある。
- c 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例はない。
- d 間質性肺炎の初期症状は、かぜの諸症状と区別が難しい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 59 医薬品の適正使用のための啓発に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、一般用医薬品の販売等に従事する医薬関係者として、医薬品適正使用のための啓発活動に積極的に参加することが期待される。
- b 登録販売者は、一般用医薬品の販売等に従事する医薬関係者として、セルフメディケーションの普及定着のための啓発活動をするのはできない。
- c 医薬品の適正使用に関して、小学生に啓発する必要はない。
- d 医薬品について正しい知識を普及するために毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 60 薬物乱用防止の啓発に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬物乱用防止を推進するために、毎年「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- b 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するだけでなく、社会的な弊害を生じるおそれ大きい。
- c 一般用医薬品によって薬物乱用や薬物依存が生じることはないが、一般用医薬品の販売に従事する医薬関係者の団体等は、薬物乱用防止に係る啓発活動に積極的に参加することが望ましい。
- d 薬物依存とは、麻薬、覚せい剤、大麻等違法薬物の乱用によってのみ生じるものである。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	正	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

